

ミ ニ シ タ ー  
**あぜみち通信**

\* \* \* \* \*

平成20年8月1日

92号

編集・発行：愛知県農業会議

**前会長 吉川 博 先生を悼む**

本年4月から愛知県農業会議顧問に推戴しておりました吉川博前会長が、7月2日肺炎のためご逝去されました。85才でした。

昭和24年、25才の若さで十四山村長に就任し、通算4期の在任中には5千名を超える死者・海岸堤防の決壊による2ヶ月余りの浸水など未曾有の大被害をもたらした伊勢湾台風からの迅速な復興に尽力されて、昭和44年には県政に転じ連続4期愛知県議会議員を務め、議長など要職を歴任された後、昭和58年から2期参議院議員を務められ、農林水産委員長・農林水産政務次官などを歴任されました。

昭和55年10月には、愛知県土地改良事業団体連合会副会長として、愛知県農業会議会長に就任され、平成20年3月まで農業委員会系統組織の発展を支えて来られました。

愛知県農業会議会長としても多くの功績を残されましたが、「都市農業の保全育成に関する建議」（昭和56年8月）に依って、都市近郊の農業の重要性に対する理解と交流の活性化を促し、市民農園の整備や地産地消の推進に寄与されたこと、愛知県農家花嫁花婿対策連絡協議会（昭和60年8月設立）を通じた農業後継者の配偶者対策の積極的な推進により、今日まで多くの男女の結婚を仲立ちし千数百組に及ぶ成婚をみたこと、愛知県構造政策推進会議（昭和61年設置）を核として農地の賃借を中心とする構造政策を推進されたこと、愛知県稲作経営者会議への支援によって基本食料の生産者でもあり水田農業の担い手である稲作経営者の誇りと連携の醸成を推進されたこと、等々、枚挙に暇がありません。

これらのご功績が認められ、平成10年4月には勲二等瑞宝章を受章されましたが、その後も、農業会議会長などとしてご活躍され、平成12年には、いわゆる「2・3・0運動」の展開を決定するとともに、平成15年3月には、「愛知県農林業基本条例の制定に関する要望」を建議し、全国に例を見ない「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」の制定を促進されました。

平成20年3月31日をもって後進に道を譲って、愛知県土地改良事業団体連合会会長及び愛知県農業会議会長を退き、それぞれ名誉会長、顧問を務めておられました。

選出母体であった海部土地改良区の理事長としての任期が満了する7月2日の夕刻、天寿を全うされ、黄泉の国へ旅立たれました。

あらためて、吉川博前会長のご冥福をお祈りします。

合掌

## ◎ 愛知県農業会議監査会を開催

7月8日、白壁庁舎において、平成19年度事業及び決算に係る監査会を行いました。

桑山昇監査委員、山本章司監査委員に対し、佐宗会長及び事務局から事業報告及び経理状況について説明し、その処理状況について監査をして頂きました。

## ◎ 地域別農業者年金担当者会議を開催

6月30日に海部地域、7月1日に尾張・名古屋地域、3日に知多地域、7日に西三河・豊田加茂地域、10日に新城設楽・東三河地域の農業者年金担当者会議を開催し、加入推進目標について説明するとともに、目標達成のため、推進用チラシを各種会議等での配布等活用されるよう依頼しました。

また、近年女性の加入者が増加していることから、女性農業委員に焦点を当てた加入推進研修会が、9月9・10日にグランドホテル浜松で開催されることとなっておりますので、一人でも多くの女性農業委員さん各市町村農業委員会の加入推進部長さんの出席をお願いしました。

## ◎ 第20回農業委員会統一選挙が実施されました

第20回の農業委員会統一選挙が7月6日（日）に実施されました。

県内61の農業委員会の内、51市町村農業委員会（82選挙区）で選挙が行われましたが、30市の農業委員会については6月29日、21町村の農業委員会については7月1日に告示が行われ、全体として816人の定数に対し何れの市町村農業委員会も定数以内815人の立候補があり、全員が当選されました。

豊山町においては1名の欠員となっています。

## ◎ 農地情報利用効率化対策事業企画検討会を開催（農地情報の共有化を議論）

7月7日に白壁庁舎において、東海農政局（構造改善課、地域整備課）、県農林水産部（農業振興課、農地計画課）、愛知県土地改良事業団体連合会、愛知県担い手育成総合支援協議会、県農業会議の担当者の「農地情報共有化」に関する意識統一を図るため、課題、推進体制の整備、今後の展開方向等についての情報交換会が開催されました。

この検討会は、従来から本会で実施している農地基本台帳及び農地地図情報の電子化の推進の一環として行っているものですが、昨年11月に国において「農地政策の展開方向」が示され、この中で各関係機関・団体の持っている農地情報の共有化を推進していく方向が示されたことに対応して開催したものです。

検討会では「農地基本台帳と水土里ネット（愛知県土地改良事業団体連合会）の農地地図情報を結合させるための補助事業である"農地情報整備促進事業"の実施主体が地域担い手育成総合支援協議会となっているので、手が挙がりにくい。」、「農地基本台帳と土地改良連合会の農地地図情報を結合させた場合のランニングコストがどの程度かかるのか試算が示されていない。」など具体的な質問も出されました。農地情報の共有化については、県内でも数市町村（地域担い手育成総合支援協議会）が前向きに検討していきたい旨の意向が出されており、今後、県段階の推進体制の整備が急務となっています。

## ◎ 愛知県農家花嫁花婿対策連絡協議会が地域運営会議を開催

愛知県農家花嫁花婿対策連絡協議会（略称：愛花協）の地域運営会議を県内4カ所（豊橋市（15日）、安城市（16日）、白壁庁舎（17日）、弥富市（18日））で開催しました。

愛花協の活動と地域活動を高めるため、各会員事務局、各農林水産事務所農政課・農業改良普及課の担い手育成担当者等に出席頂き、愛花協の平成20年度事業の具体的な推進や各会員の事業実施状況について熱心に協議して頂きました。

特に、昨年から実施して、出席した独身男性から大変好評の「魅力ある男性ブラッシュアップ講座」については、土・日曜日の開催を強く要望されているとのことですので、参加者が出席し易いように開催計画を立てることとなりました。

## ◎ 愛知県稲作経営者会議総会が開催されました

愛知県稲作経営者会議の総会が7月18日名古屋市中区のクラウンホテルにおいて開催されました。

平成19年度の事業報告及び決算、平成20年度の事業計画及び予算とも承認されましたが、冒頭、小川会長は「会員相互の連携強化により、地域から求められる『担い手』として経営を確立し、水田農業の発展に寄与したい。」と決意を述べられました。

総会には、岩元明久東海農政局長、永田清愛知県農林水産部長を始め多くの来賓にもご出席を頂きましたが、来賓の祝辞は、石油価格の高騰など経営を巡る事態への対応や、20年産米の生産調整の的確な推進に向けた協力要請が盛り込まれるなど、厳しい情勢を反映したものでした。

総会終了後は、平成19年度の農林水産祭農産の部の天皇杯を受賞された、岐阜県海津市の有限会社福江農産代表取締役後藤昌宏氏を講師に、「地域密着型の大区画ほ場を活用した営農活動の実践」について、記念講演を頂きました。

## ◎ 愛花協ふれあい交流会を各地で開催

愛知県農家花嫁花婿対策連絡協議会のふれあい交流会を、関係者のご協力の下に各地で開催しました。

碧南ファームハンド男女交流会が19日、碧南市あおいパークで開催されました。参加者は独身男性13名（ファームハンド会員）と公募に応じた17名の独身女性の30名で、あおいパーク体験農園でサツマイモと落花生の収穫体験をした後、JAあいち中央碧南営農センターへ移動し、県内産農畜産物のバーベキューと衣浦みなと祭り花火大会を楽しみました。近くで見る豪華な花火に大きな歓声を上げていました。

JAあいち知多ふれあい交流会は20日、常滑市のJAあいち知多総合本部ビルで開催されました。独身男性18名と独身女性15名の33名が参加し、自己紹介、ゲームなどを通じてふれあい交流を図りました。4組のカップルが誕生しました。

岡崎4Hクラブ「グリーンセミナー」が27日、岡崎げんき館の市民交流ゾーン調理実習室で開催されました。4Hクラブ員8名と応募参加した9名の独身女性が岡崎市内の農畜産物を使った米粉パンやピザ作りに挑戦しました。意欲的な農業後継者の態度と試作品のおいしさに参加した女性も大変満足した様子でした。

## ◎ 常任議員会議（7月）の審議状況

農地法などに係る諮問に関する常任議員会議を7月15日に開催しました。

農地法第4条に基づく転用事案41件16,429平方メートル、及び第5条に基づく転用事案348件273,189平方メートル、並びに農業振興地域の整備に関する法律第15条の2第6項に係る開発行為2件4,320平方メートルについて審議し、何れも原案通りで了とすることが議決されました。

また、農地法第64条の規定に基づく開拓財産の売渡しに係る売渡予約書交付の相手方の選定についても、諮問通り地先の農業者を相手方とするとの原案通りで了とすること議決されました。

会議終了後は、地方分権改革に対する要請活動及びその結果、第20回農業委員会統一選挙の結果、今後の常任議員会議互選に係る日程などについて説明をし、佐宗会長から今回の常任議員会議限りで農業委員会委員を退任される議員などへ謝辞を述べて散会しました。

## ◎ 担い手アクションサポート事業地域活動推進支援研修会を開催します

平成20年度第1回総会にあわせて、地域活動推進支援研修会として、日本農業研究所の岸康彦氏を講師にお招きして「農政の潮流と地域活性化について」と題しての講演会を行います。

講師の岸先生は、岐阜県の出身で長年にわたり日本経済新聞社論説委員を務められた後、愛媛大学教授に転じられた方で、農政ジャーナリストの会会長など要職を歴任され、現在では財団法人日本農業研究所理事・研究員として活躍しておられます。

今後、日本農業が元気を取り戻し、食が消費者の信頼を取り戻すために、今、何が重要かについてお話いただくこととなっています。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

## ◎ 第1回夏の若い稲作経営者研究会が開催されました

全国稲作経営者会議、同青年部、愛知県稲作経営者会議及び同青年部の共催による第1回夏の若い稲作経営者研究会が、7月28日・29日にわたって愛知県内で開催されました。

従来、全国稲作経営者会議の青年部研究会は冬季に開催されて来ましたが、関連企業をビジネスパートナーとして迎え、さらなる活動の活性化と活動をアピールして行くため、夏季の開催も検討すべきとの会員の要望に基づき企画されたもので、第1回の会場が愛知県となったものです。

28日午後1時・名古屋市中区のメルパークでの開会式には、岩元明久東海農政局長、永田清愛知県農林水産部長などが駆けつけ、県内外からの約80名の参加者を激励されました。

記念講演は中京大学現代社会学部教授日比野省三氏の「とびだせ！農業～過去の延長線上に未来はない～」で、熱烈な激励を受けた後、創美 C.C. ラボ代表のひとあやか氏の指導で、4～6人の12グループに分かれてワークショップ「とびだせ！農業 実習編」が行われました。

新しい稲作や農業のビジネスモデルを考えようと各グループでアイデア出しが行われましたが、これまでに日比野先生等の指導を受けたことのある愛知県内の参加

者が中心となって議論の展開・集約が行われ、県外からの参加者も初体験ながらも、徐々になれてアイデアを出し始め、予定時間を超過して熱心に研修が行われました。

研修終了後は、来賓や講師も囲んでの情報交換会が持たれ、熱心な意見交換とビジネスパートナー各社の商品紹介や交流が行われました。情報交換会の中では、日頃食育などにも積極的に参加している安城市の都築君保さんらによる、地元産小麦粉を使ったうどんの手打ちの実演や「ふれあい田んぼアート」の取り組み状況を紹介するDVDの放映なども行われ、参加者の話題の中心となっていました。

29日は、トヨタ自動車元町工場を訪ね、トヨタの効率的でかつ高い品質の組み立て・溶接行程を見学しました。

### ◎ 市町村農業委員会研修会が開催されています

農業委員会の選挙が終了し、新任の農業委員さんが増えたことなどから、各市町村農業委員会の研修会が開催されています。

これまでに開催され、農業会議から職員が参加したのは、西尾市（7月22日）大口町、一色町（23日）、江南市（25日）、岡崎市（30日）、常滑市（31日）ですが、ご要望に応じ担当者を派遣しますのでお申し出下さい。

なお、愛知県農業会議主催の農業委員・事務局職員研修会については、9月1日以降各地域で開催します。

### ◎ 愛花協だより（知事お祝いメッセージ、会長色紙贈呈）

豊橋市 小野田 康 司 さん ・ 未 来 さん （7月20日挙式）  
ご結婚おめでとうございます。一層のご活躍とご多幸を祈ります。

### ◎ 今後の主な行事予定

支部長の選出などに係る農業委員長・事務局長会議を、次のとおり開催します。

- 1日：知多支部。 4日：東三河支部、新城設楽支部。 5日：西三河支部、  
豊田加茂支部。 6日：尾張支部 （海部支部は7月29日に開催）
- 8月12日 農業会議支部長会議・賛助団体会議 （白壁庁舎）  
8月20日 東海市農業委員会研修会 （東海市）  
8月22日 平成20年度第1回総会 （水産会館）  
8月28日 常任会議員会議 （白壁庁舎）  
8月30日 愛花協ふれあい交流会 （新城市）  
9月 1日 市町村農業委員会委員・事務局職員研修会 （豊川市）  
（以下、半田市（3日）、安城市（12日）、稲沢市（17日）で開催します）

### あとがき

7月21日からスイスのジュネーブで開かれていたWTOドーハラウンドの閣僚交渉が、一転決裂しました。

世界的な穀物価格の高騰や、食糧サミット、洞爺湖サミットでの合意事項にも拘わらず、農産物の輸出規制に対する規律強化が盛り込まれないまま、関税の大幅な引き下げが迫られるという最悪の事態は避けられましたが、貿易自由化の波は今後とも引き続き押し寄せることが懸念されます。

食料自給率の回復が思うに任せず、耕作放棄地が増え続ける状況を見るにつけ、国内生産の振興に向けた声の高まりを期待したいものです。

# 新 刊 の ご 案 内

図書コードNo.・図書名	定価・仕様	概 要
20-10 2008年度 <b>農業委員業務必携</b> 年度版	1,400円 A4 160頁	農業委員の基本テキスト。農業・委員・農業委員会が関係する法律や必須の活動、新しい農業政策、農地制度・農業委員会組織を取り巻く情勢などを説明。活動事例も収録。
20-12 平成20年度版 <b>農家相談の手引</b> 年度版	700円 A4 128頁	農地の法律・制度から農業経営の支援施策まで、農家にかかわる幅広い諸制度を最新PR資料などで解説したホルダーの小冊子。農業委員をはじめ地域リーダーの皆さまに農家相談の手引として役立てていただきたい一冊です。
20-13 <b>農地の法律早わかり</b> 第5版  改訂版	700円 B5 108頁	農業委員会業務の基本である農地法、農業経営基盤強化促進法等、農地に関わる制度についての事務を図解するなど、わかりやすく説明した農地関係の法律を理解する上での入門書。平成18年5月に会社法が施行され、農業生産法人の組織要件が改正されたことなどから内容を改訂し、第5版を刊行。
20-21 <b>戸別訪問に取り組もう！</b> <b>農業者年金加入推進セット</b>  改訂版	700円 A4	平成19年度から農業者年金の「加入者10万人早期達成3か年計画」が進められています。本書は、農業者年金の加入推進活動に取り組む農業委員会およびJAの皆さんの戸別訪問用のファイル形式の資料です。積極的な加入推進活動の展開に、ぜひご活用下さい。
20-16 <b>新農地全書 第四版</b>  改訂版	2,500円 A5 330頁	農地に関連した権利関係や税金などの農地相談を問答形式でまとめたもの。会社法の施行に伴う農地法の改正や税制改正を受けて改訂。昭和47年以來のロングセラーの書。